独立行政法人統計センター評価に関する有識者会議［議事要旨］

１ 日　　時:令和４年８月１日（月）　１７：００～１８：００

２ 場　　所:総務省第２庁舎　７階統計局長室（オンライン併用）

３ 出 席 者:（有識者）廣松毅（座長）、小林稔（オンライン：岩下真理、加藤久和、津谷典子）（敬称略）
（総務省統計局）井上統計局長、阿向総務課長、赤谷調査官、石川課長補佐、事務局
（統計センター）高田経営審議役（オンライン：山田審議役、植松総務部長・保高統計編成部長・伊藤情報システム部次長・槙田統計技術・提供部長、野村経営企画課長（陪席：江原経営企画課副課長、山下課長代理、武山係長、松永官））

４ 議　　題:　（１）令和３年度に係る業務の実績に関する評価(案)について
（２）総合評定（案）について
（３）その他

５ 議事概要:
（１）総務省統計局から令和３年度に係る業務の実績に関する主務大臣による評価（案）の説明が行われた。
（２）質疑が行われた後、総務省統計局から総合評定（案）について、説明が行われ、項目別評定及び総合評定ともに妥当であるとの意見で一致した。
（３）有識者からの主な意見等は以下のとおり。
〇企業調査支援のＳ評価に賛成。対象企業数が増えた中で回収率99%は素晴らしい。また、各企業にコンシェルジュを置いたことも高く評価。
〇各省支援事業について、各省は統計に対する経験や専門性に大きな差があり、人事異動も頻繁にある。そうした状況下で統計に係る取組にも温度差がある中、各省を支えていく統計センターの役割はますます重要である。職員のトレーニングの重要性も議論されているところであり、統計センターは、統計局や統計研究研修所とも連携し、各省の下請けでなく equal partner として取り組んでいってほしい。
〇統計リテラシーは、SSDSE の利用も増えており、データ分析コンペティションも広く社会貢献になっている。もっと強くアピールしても良いと思った。
〇国勢調査は我が国の統計の中で最も重要なものであり、それをきちんとやり遂げている。AI を導入し大きな成果を挙げたので、S 評価は当然だと思われる。様々な努力はなかなか見えにくいと思うが、AI による効率化は重要であり、人的リソースを効率的に使える点で評価。
〇国勢調査や社会生活基本調査、家計調査等に AI を活用し格付率を大きく上昇させたことは素晴らしい。イノベーティブな取組であり、今後とも頑張ってほしい。
　また、DX 化は政府統計全体の方向性であり、その先鞭をつけたことを高く評価。国勢調

査は調査票の構造が比較的単純である一方、全数調査で規模が大きく、規模の経済性が働きやすい。これを leading edge として、他の調査でも頑張ってほしい。
〇家計調査のハイブリッド格付支援も評価したい。単に負担の軽減だけでなく、効率性をアップさせるためには、いくら AI が進歩していてもそれだけでは不十分なので、適性のある専門のスタッフをきちんと確保することは重要。
〇受託業務は、統計センターとしては各省のサポートという受け身的な役割かもしれないが、プロとしての専門性をもって取り組んでいただきたい。
〇情報発信として、API やオーダーメード集計等のデータ利活用に取り組んでいることも高く評価する。また、統計センターがリーダーシップをとってメタデータレジストリを整備したことも評価したい。
　ただ、データ利活用については、匿名データの件数が伸び悩んでいることが気になる。統計センターだけでなく統計局や政策統括官室の問題でもあるのだろうが、匿名データの位置づけがどうあるべきかについても今後検討いただきたい。
〇業務の効率化については、本日は特に指摘がなかったが、「経費を減らせばそれで良いのか」ということについては、昨年の会議でも議論になったところ。今回までは以前決めた効率化計画を達成しなくてはならないとの説明があったが、それが終わり、これからは新たな枠組みを考えることができるということである。
〇研究業務も今回は A 評価ということで、今後も研修所等とも連携をとって取り組んでもらいたい。
〇内部統制も、B とする評価案に反対ではないが、A 評価でも良かったと思う。

以　上